

1. 科目名 (単位数)	金融論 (2 単位)	3. 科目番号	SBMP2135						
2. 授業担当教員	保原 伸弘								
4. 授業形態	講義、グループディスカッション、グループワーク	5. 開講学期	秋期						
6. 履修条件・他科目との関係	暮らしと経済の履修と並行することで理解が深まります								
7. 講義概要	<p>金融論の場合は、入門であっても、講師によって扱う内容が様々に異なっている。それだけ金融という現象が幅広い経済分野にまたがっているからである。本講義は、金融論の基礎について体系的・包括的に全体像を学ぶだけでなく、そうした知識・理論を用いて、基礎的な個人の金融行動選択の方法を学ぶことに特徴がある。予備知識が少ない学生でも理解できるようになるべく平易に解説する。</p> <p>前半では、金融論の基礎知識・理論として、金融の役割、金融の方法、金融取引を行う場である金融市場、貨幣、金融機関、金融政策を解説する。後半は、個々の経済主体の意思決定に必要な基礎知識として、お金を融通することの対価である利子率、家計や企業等の金融行動に関する基本的な理論や方法を解説する。</p> <p>講義の進行方法については、受講者の理解を深めるため項目ごとに問題演習を行う。また課題として提出するレポートをもとに、ケーススタディーやディスカッションを行い、理解を深める。</p>								
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 日本の金融経済の現状を把握し、説明できるようになる。 金融の基礎理論を理解し、説明できるようになる。 預金や株式、社債などの金融商品の取引や、その結果である利益と損失の発生を理解し、説明できるようになる。 家計や個人の金融行動の選択に関する考え方と方法を習得し、日常生活で実践できるようになる。 金融の理論や方法を企業や社会福祉関連施設等の運営・管理において応用できるようになる。 								
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	適宜課します								
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】吉田真理子、大野早苗『はじめての金融理論』中央経済社、2011。 【参考書】玉川和夫著 『新金融経済と証券投資』入門から使える標準理論まで 中西出版 2016。 家森信善『はじめて学ぶ金融のしくみ 第4版』中央経済社、2013。 日本経済新聞社編『ベーシック 金融入門』日本経済新聞出版社、2011。 玉川和夫著 『新金融経済と証券投資』入門から使える標準理論まで 中西出版 2016。</p>								
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> テキストの輪読を通じて、金融論の基礎知識が理解できているか。 (中間) レポート課題に対して的確に検討し、説明できるようになっているか。 期末試験 (又はレポート) を通じて、専門用語等を理解し、説明できるようになっているか。 <p>○評定の方法</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の10%</td> </tr> <tr> <td>2. (中間) レポート</td> <td>総合点の30%</td> </tr> <tr> <td>3. 期末試験 (又はレポート)</td> <td>総合点の60%</td> </tr> </table>			1. 授業への積極的参加	総合点の10%	2. (中間) レポート	総合点の30%	3. 期末試験 (又はレポート)	総合点の60%
1. 授業への積極的参加	総合点の10%								
2. (中間) レポート	総合点の30%								
3. 期末試験 (又はレポート)	総合点の60%								
12. 受講生へのメッセージ	<p>理解が不十分な点については、そのまま放置せず、授業中あるいはオフィスアワーを利用して積極的に質問すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 授業中、積極的に自分の考えを発言すること。講義を単に学課を学ぶ場としてではなく、自分の考えをまとめ、発言するといった今後の学生生活や社会生活に必要なトレーニングの場と考えること。 現実の経済に比して、仮定が多い、経済学の議論の進め方に最初は違和感を覚えるかもしれないが、学習を進めると案外シンプルで有効なツールであることを実感して欲しい。 これまで数式やグラフにアレルギーを持っていた人もいるかもしれないが、この講義をきっかけにしてそのアレルギーを克服して欲しい。 								
13. オフィスアワー	適宜通知します								
14. 授業展開及び授業内容									
講義日程	授業内容	学習課題							
第1回	金融の役割 金融の方法と金融市場	事前学習	貨幣と金融について予習すること						
		事後学習	貨幣と金融について復習すること						
第2回	貨幣 日本銀行	事前学習	日本銀行の役割について考える						
		事後学習	貨幣や日本銀行について復習すること						
第3回	日本の金融機関 預金通貨と信用創造	事前学習	銀行の役割について考える						
		事後学習	銀行の役割について復習						
第4回	信用乗数 利子と利子率	事前学習	利子とは何かを何かみてる						
		事後学習	利子について復習する						
第5回	債権価格と投資収益率 株価と株式の収益率	事前学習	株価や債券価格について考える						
		事後学習	株価資産倍率や株価収益率について復習						
第6回	家計の金融行動 企業の金融行動	事前学習	金融行動について予習						
		事後学習	金融行動について復習						
第7回	為替レートとは	事前学習	投資にはリスクがつきものということを理解する						
		事後学習	為替レートについて復習						
第8回	マクロ経済学の基礎理論	事前学習	ここからマクロ経済の勉強に入る 何か興味のある経済現象をピックアップする						
		事後学習	今日の学習を復習する						
第9回	国民所得の決定 国民所得と利子率の関係	事前学習	国民所得の決定について学ぶ						

		事後学習	国民所得と利率の関係について復習
第10回	貨幣の需要 LM 曲線の導出	事前学習	資産として貨幣はどういう性質を持つか
		事後学習	LM 曲線の導出について復習すること
第11回	財政政策と金融政策の効果	事前学習	財政政策、金融政策とは何か整理する
		事後学習	財政政策と金融政策の効果について復習
第12回	開放経済における国民所得の決定と乗数効果	事前学習	キャピタルフライトとは何か
		事後学習	マンデルフレミングモデルを復習する
第13回	為替制度と為替介入	事前学習	円安のメリットとデメリットをまとめる
		事後学習	為替について復習
第14回	マンデルフレミングモデルと為替制度・為替介入	事前学習	マンデルフレミングモデルを再チェック
		事後学習	為替介入は必要か
第15回	日本の金融制度	事前学習	なぜリーマンショックは起こったか
		事後学習	日本の金融制度を復習する
期末試験			